



「新渡戸稲造記念センター ニュースレター」発行に寄せて

『汝の光を 輝かせ』 ～ Service and Sacrifice ～

新渡戸稲造記念センター長／順天堂大学 名誉教授 樋野 興夫



この度、「新渡戸稲造記念センター ニュースレター」が、星野編集長、大弥代表・森代表・齋藤代表の執筆によって発行される運びとなった。

丁度、筆者が理事を務める恵泉女学園から名刺が送られてきた。名刺には、『汝の光を 輝かせ』と記載されていた。また、理事が務める東京女子大の校章は、「2つのS」である。

1918年、開校で校章の制定を提案した新渡戸稲造学長の言葉には、「やはりこの学校の精神、キリストの精神を示すものがあると思う。たとえば犠牲と奉仕ということほどこの精神を代表するものはない。また、みなさんの全生涯を通じてこの精神ほど大切なものはないと思う。英語では、Service and Sacrificeだ。この頭文字のSを二つとってこれを並べてもいいし、打ちたがえて卍型にするのもおもしろい。これは十字架の形でもある。人間は縦の関係が大切だ。これは神と人との関係であり、横の関係は個人と個人の交わり、社会性を現わしているのが十字架の形である。この形は、人間を中心に考えた場合、もっとも安定した形かもしれない。また、SSはローマ字で精神と身体、思索と仕事にも通じる」と語っている。

『生活環境や言葉が違って心を通えば友達であり、心を通じ合う人と出会うことが人間の一番の楽しみである』（新渡戸稲造）を体験する日々でもある。新渡戸稲造は、国際連盟事務次長時代に、「知的協力委員会」を構成した。そのメンバー中には、当時の最高の頭脳を代表するアインシュタイン、キュリー夫人もいたことは特記すべきことである。

2003年に初版『われ21世紀の新渡戸とならん』、2018年に新訂版、2019年4月には英語版『I Want to Be the 21st Century Inazo Nitobe』が発行されることになった。タイミング的には「新渡戸稲造記念センター長」就任記念ともなった。筆者に強い印象を与えた言葉は、「ボーイズ・ビー・アンビシャス」(boys be ambitious)である。札幌農学校を率いたウィリアム・クラーク(1826-1886)が、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。

クラーク精神が新渡戸稲造(1862-1933)、内村鑑三(1861-1930)を生んだことも知らぬまま、ぽつと希望が灯るような思いであったものである。その後、新渡戸稲造・内村鑑三、南原繁(1889-1974)、矢内原忠雄(1893-1961)を静かに学んできた。

昨日は、筆者は、「南原繁研究会の代表」を拝命した。驚きである。人知を超えて時が進んでいることを痛感する日々である。ここに、「新渡戸稲造記念センター ニュースレター」発行の歴史的意義があろう！

「がん哲学外来」のお知らせ ～新渡戸記念中野総合病院（東京医療生活協同組合）



東京医療生活協同組合 新渡戸記念中野総合病院 がん哲学外来

後援：一般社団法人 がん哲学外来

2019年4月より、本館6階「新渡戸稲造記念センター」にて、樋野興夫センター長による「がん哲学外来」が始まりました。「がん哲学外来」は、がんにまつわる様々な悩みを対話を介して解消する外来です。



樋野興夫
一般社団法人 がん哲学外来理事長
新渡戸稲造記念センター長

外来は予約制で1回あたり約50分(1日4組まで)。外来には費用はかかりません。患者ご本人でも、ご家族の方でもお申込みができます。

※当事業は東京医療生活協同組合の組合員の方を対象しております。東京都内にご住所がある方、または東京都内の企業に勤務されている方であれば、どなたでも組合への加入の資格があります。お手続きは出資申込書の記入・出資金(1口200円、25口5,000円より)となります。ご希望の方は総務課までご連絡ください。

～開催予定～

4/23(火) 5/16(木) 5/21(火)
5/27(月) 6/4(火)

予約お申込み先(電話のみでの対応となります)
(※原則前日の16:30で締切となります。当日は応相談)
患者支援センター
03-3382-1507(9:00～16:30)

新渡戸稲造記念センター長の就任！おめでとうございます！



「新渡戸稲造記念センター」開設、センター長就任おめでとうございます。

尊敬の念に堪えません。樋野先生の日ごろ語られる夢は、天国で「7人の侍と2人の恩師」と共にメディカルカフェを開くことです。そして「夢もまた人生の一部である。夢のない人生はない」(新渡戸稲造)のおことばの通り、私にも夢があります。「目白がん哲学外来メディカルカフェ」をしっかり続けることです。

メディカルカフェは「空っぽの器」のようなものです。スタッフと一緒に底の頑丈なものにして、来てくださる方々に満たしてもらい、希望が生まれたり、役割・使命に気づききっかけになったりする場になればと思っています。

「無邪気に一生懸命、小さなことに大きな愛を込めていく」なかで、「病気であっても病人ではない」と普通に語られる社会が近づくよう、いい覚悟で生きていく所存です。カフェを始めてこの夏で3年目、夢は見るものから叶えるもの、人生の一部となりつつあります。

(目白がん哲学外来カフェ 森 尚子)

「新渡戸稲造記念センター」の開設、おめでとうございます。

がん哲学外来の活動の益々の発展をお祈りします。カフェをはじめて5年になりますが、患者である私がこの活動を通して生きがいを得られたように、がんの悩みや不安を抱える人が少しでも気持ちを解消し、共に考え語らえる場、来られた人をあたたかく迎え入れる場でありたいものです。そして、病気の悩みや不安だけでなく、人生や死についても語れる場でありたいです。

いよいよ、5月3日から1週間の予定で、新宿武蔵野館にて「がんと生きる 言葉の処方箋」の映画が上映されます。この映画が全国各地で上映され、より多くの方に観ていただけることを願っています。

がんであっても尊厳をもって生きられる社会、病気であっても病人にならない社会を目指して、がん哲学外来の活動がその架け橋となることを信じて、活動を続けて参ります。

(東村山がん哲学外来メディカル・カフェ 大弥 佳寿子)



「新渡戸稲造記念センター」の開設、樋野先生のセンター長ご就任、おめでとうございます。がん哲学外来の歩みが医療維新への大きな一歩になることを日々感じております。「走るべき行程」と「見据える勇氣」、樋野先生から頂いた言葉です。

がん哲学外来メディカルカフェでは、それぞれのかけがえのない命を生きる姿にスポットが当たり、今という時間に希望を見出します。

ひとりひとりの中に灯された希望という小さな灯りがいつかこの時代全体を輝かせる。「一つのがん細胞が世界をがん化させることができる＝一人一人の灯りが世界を温かなものにする事ができる」とカフェの活動の時代的意義を学ばせて頂いています。

自分のそして隣の人の涙と笑顔を大切にすることが、私たちがカフェの活動でできる医療維新の「走るべき行程」の一つであると心に置き、大事にしていきたいと思えます。

(松本がん哲学みずたまカフェ 斎藤 智恵美)

<編集後記>

私は終戦間近い昭和19年にこの世に誕生した。昭和は64年、そして平成に変わったが、私にはあつという間の歳月だった。樋野先生と出会ったのは、2009(平成21)年5月9日(NPO「がん哲学外来」設立記念の日)である。この日の記憶はあまりにも鮮明だが、以後、何が何して何とやら状態で、今日まで走って来た。

明日から「令和元年」、「新渡戸稲造記念センター」の新しい船出を寿ぎたい思いで一杯である。(星野 昭江)